



アラート

- [Alert Central の表示, on page 1](#)
- [アラートアクションのセットアップ, on page 8](#)
- [コア ダンプのアラートのセットアップと関連ログの収集, on page 16](#)

Alert Central の表示

Unified RTMT は、事前設定されたアラートとカスタム アラートの両方を Alert Central に表示します。Unified RTMT は、該当するタブ（[システム（System）]、[音声/ビデオ（Voice/Video）]、[IM and Presence サービス（IM and Presence Service）]、[Cisco Unity Connection]、[カスタム（Custom）]）でアラートを整理します。

[Alert Central] で事前設定のアラートとカスタムアラートを有効または無効にできます。ただし、事前設定のアラートは削除できません。

システム アラート

次に、設定済みのシステム アラートを示します。

- AuthenticationFailed
- CiscoDRFFailure
- CoreDumpFileFound
- CpuPegging
- CriticalServiceDown
- DBChangeNotifyFailure
- DBReplicationFailure
- DBReplicationTableOutOfSync
- HardwareFailure
- LogFileSearchStringFound

- LogPartitionHighWaterMarkExceeded
- LogPartitionLowWaterMarkExceeded
- LowActivePartitionAvailableDiskSpace
- LowAvailableVirtualMemory
- LowInactivePartitionAvailableDiskSpace
- LowSwapPartitionAvailableDiskSpace
- ServerDown (Unified Communications Manager クラスタに適用)
- SparePartitionHighWaterMarkExceeded
- SparePartitionLowWaterMarkExceeded
- SyslogSeverityMatchFound
- SyslogStringMatchFound
- SystemVersionMismatched
- TotalProcessesAndThreadsExceededThreshold

Related Topics

[システム アラート](#)

自動トレース ダウンロードのアクティベーション

事前に設定されたアラートの中には、イベントが発生するとトレース ダウンロードを開始できるアラートがあります。次のアラートで [アラート/プロパティの設定 (Set Alert/Properties)] の [トレース ダウンロードの有効化 (Enable Trace Download)] チェックボックスをオンにすると、特定のイベントが発生したときに、トレースを自動的に取り込みます。

- **CriticalServiceDown:** CriticalServiceDown アラートは、いずれかのサービスが停止すると生成されます。CriticalServiceDown アラートは、RTMT の [重要なサービス (Critical Services)] リストに含まれるサービスだけをモニタします。



Note Unified RTMT バックエンド サービスは、(デフォルトで) 30 秒ごとにステータスを検査します。サービスが停止し、その期間中に復帰した場合、CriticalServiceDown アラートは生成されない場合があります。

- **CodeYellow:** このアラームは、コール処理中の許容できない大幅な遅延が原因で、Unified Communications Manager がコール制御を開始したことを意味します。
- **CoreDumpFileFound:** CoreDumpFileFound アラートは、Unified RTMT バックエンド サービスが新しいコア ダンプ ファイルを検出すると生成されます。



Note CriticalServiceDown と CoreDumpFileFound の両方のアラートを設定して、トラブルシューティング目的で、対応するトレース ファイルをダウンロードすることができます。この設定は、クラッシュしたときにトレース ファイルを維持するために役立ちます。



Caution トレース ダウンロードを有効にすると、ノードのサービスに影響を与える場合があります。多数のダウンロードを設定すると、ノードの QoS に悪影響が生じます。

音声およびビデオ アラート

次に、事前設定された音声およびビデオ アラートを示します。

- BeginThrottlingCallListBLFSubscriptions
- CallAttemptBlockedByPolicy
- CallProcessingNodeCpuPegging
- CARIDSEngineCritical
- CARIDSEngineFailure
- CARSchedulerJobFailed
- CDRAgentSendFileFailed
- CDRFileDeliveryFailed
- CDRHighWaterMarkExceeded
- CDRMaximumDiskSpaceExceeded
- CiscoElmNotConnected
- CiscoGraceTimeLeft
- CiscoNoProvisionTimeout
- CiscoSystemInDemo
- CiscoSystemInOverage
- CiscoSystemSecurityMismatch
- CodeYellow
- DDRBlockPrevention
- DDRDown
- EMCCFailedInLocalCluster
- EMCCFailedInRemoteCluster

- ExcessiveVoiceQualityReports
- ILSHubClusterUnreachable
- ILSPwdAuthenticationFailed
- ILSTLSAuthenticationFailed
- IMEDistributedCacheInactive
- IMEOverQuota
- IMEQualityAlert
- IMEServiceStatus
- InsufficientFallbackIdentifiers
- InvalidCredentials
- LocationOutOfResource
- MaliciousCallTrace
- MediaListExhausted
- MgcpcDChannelOutOfService
- NumberOfRegisteredDevicesExceeded
- NumberOfRegisteredGatewaysDecreased
- NumberOfRegisteredGatewaysIncreased
- NumberOfRegisteredMediaDevicesDecreased
- NumberOfRegisteredMediaDevicesIncreased
- NumberOfRegisteredPhonesDropped
- RecordingCallSetupFail
- RecordingGatewayRegistrationRejected
- RecordingGatewayRegistrationTimeout
- RecordingGatewaySessionFailed
- RecordingResourcesNotAvailable
- RecordingSessionTerminatedUnexpectedly
- RouteListExhausted
- RTMTSessionExceedsThreshold
- SDLLinkOutOfService
- TCPSetupToIMEFailed
- TLSConnectionToIMEFailed
- UserInputFailure

- 実稼働評価
- 本番の期限切れ
- ProductOutOfCompliance
- ProductRegistrationExpiringSoon
- ProductAuthorizationExpiringSoon
- ProductRegistrationExpired 切れ
- ProductAuthorizationExpired 切れ
- ProductCommunicationError

Related Topics

[音声およびビデオ アラート](#)

IM and Presence Service アラート

事前設定された IM and Presence Service アラートを次に示します。

- CTIGWModuleNotEnabled
- CTIGWProviderDown
- CTIGWUserNotLicenced
- CTIGWUserNotAuthorized
- CTIGWProviderFailedToOpen
- CTIGWQBFailedRequest
- CTIGWSystemError
- EspConfigAgentMemAllocError
- EspConfigAgentFileWriteError
- EspConfigAgentNetworkOutage
- EspConfigAgentNetworkRestored
- EspConfigAgentHighMemoryUtilization
- EspConfigAgentHighCPUUtilization
- EspConfigAgentLocalDBAccessError
- EspConfigAgentProxyDomainNotConfigured
- EspConfigAgentRemoteDBAccessError
- EspConfigAgentSharedMemoryStaticRouteError
- ESPConfigError

- ESPConfigNotFound
- ESPCreateLockFailed
- ESPLoginError
- ESPMallocFailure
- ESPNAPTRInvalidRecord
- ESPPassedParamInvalid
- ESPRegistryError
- ESPRoutingError
- ESPSharedMemCreateFailed
- ESPSharedMemSetPermFailed
- ESPSharedMemAllocFailed
- ESPSocketError
- ESPStopped
- ESPStatsLogFileOpenFailed
- ESPVirtualProxyError
- ESPWrongIPAddress
- ESPWrongHostName
- ICSACertificateCAsignedTrustCertFound
- ICSACertificateFingerPrintMismatch
- ICSACertificateValidationFailure
- InterclusterSyncAgentPeerDuplicate
- LegacyCUPCLogin
- NotInCucmServerListError
- PEAutoRecoveryFailed
- PEDatabaseError
- PEIDSQueryError
- PEIDSSubscribeError
- PEIDStoIMDBDatabaseSyncError
- PELoadHighWaterMark
- PEMemoryHighCondition
- PEPeerNodeFailure
- PESipSocketBindFailure

- PEStateDisabled
- PEStateLocked
- PEWebDAVInitializationFailure
- PWSSCBFindFailed
- PWSSCBInitFailed
- PWSAboveCPULimit
- PWSAboveSipSubscriptionLimit
- PWSRequestLimitReached
- SRMFailed
- SRMFailover
- SyncAgentAXLConnectionFailed
- UASCBFindFailed
- UASCBGetFailed
- XcpCmComponentConnectError
- XcpCmPauseSockets
- XcpCmStartupError
- XcpCmXmppdError
- XcpConfigMgrConfigurationFailure
- XcpConfigMgrHostNameResolutionFailed
- XcpConfigMgrJabberRestartRequired
- XcpConfigMgrR2RPasswordEncryptionFailed
- XcpConfigMgrR2RRequestTimedOut
- XcpDBConnectError
- XcpMdnsStartError
- XcpSIPFedCmComponentConnectError
- XcpSIPFedCmStartupError
- XcpSIPGWStackResourceError
- XcpThirdPartyComplianceConnectError
- XcpTxtConfComponentConfigError
- XcpTxtConfDBConnectError
- XcpTxtConfDBQueueSizeLimitError
- XcpTxtConfGearError

- XcpWebCmComponentConnectError
- XcpWebCmHttpdError
- XcpWebCmStartupError
- XcpXMPPFedCmComponentConnectError
- XcpXMPPFedCmStartupError

Related Topics

[IM and Presence Service アラート](#)

Cisco Unity Connection のアラート

次のリストに、事前設定された Cisco Unity Connection アラートを示します。

- NoConnectionToPeer
- AutoFailoverSucceeded
- AutoFailoverFailed
- AutoFailbackSucceeded
- AutoFailbackFailed
- SbrFailed
- DiskConsumptionCloseToCapacityThreshold
- DiskConsumptionExceedsCapacityThreshold
- LicenseExpirationWarning
- LicenseExpired



Note 最初の 6 つのアラートは、Cisco Unity Connection クラスタ設定にのみ適用されます。

Related Topics

[Cisco Unity Connection のアラート](#)

アラート アクションのセットアップ

RTMT では、生成されたすべてのアラートに対してアラート アクションを設定し、そのアラート アクションをアラート アクション リストで指定した電子メール受信者に送信することができます。

次の表に、アラート アクションの設定に使用するフィールドのリストを示します。特に記載がない限り、すべてのフィールドを設定できます。

Table 1: アラートアクションの設定

フィールド	説明	備考
アラートアクション ID (Alert Action ID)	実行するアラートアクションの ID	説明的な名前を指定します。
メール受信者 (Mail Recipients)	電子メールアドレスのリスト。リスト内の個別の電子メールを選択的に有効または無効にできます。	—

Alert Central へのアクセスとアラートのセットアップ

次の手順を使用して、Alert Central へのアクセス、アラート情報のソート、アラートの有効化、無効化、または削除、アラートのクリア、またはアラートの詳細の表示などのタスクを実行できます。

Procedure

Step 1

次のいずれかの操作を行います。

- a) クイック起動チャンネルで、次の操作を実行します。
 1. [System] をクリックします。
 2. ツリー階層で [ツール (Tools)] をダブルクリックします。
 3. [Alert Central] アイコンをクリックします。
- b) [システム (System)] > [ツール (Tools)] > [アラート (Alert)] > [Alert Central] の順に選択します。

[Alert Central モニタリング (Alert Central monitoring)] ウィンドウが表示され、システムで生成されたアラートのアラート ステータスおよびアラート履歴を示します。

Step 2

次のいずれかの操作を行います。

- a) アラート プロパティを設定します。
- b) アラートを一時停止します。
- c) アラート通知の電子メールを設定します。
- d) アラートアクションを設定します。
- e) [アラートステータス (Alert Status)] ペイン内のアラート情報をソートします。カラムの見出しに表示される上/下矢印をクリックします。

たとえば、[有効 (Enabled)] または [安全範囲内 (In Safe Range)] カラムに表示される上/下矢印をクリックします。

[アラート履歴 (Alert History)] ペインでカラムの上/下矢印をクリックして、アラート履歴情報をソートできます。ペインに表示されていないアラート履歴を表示するには、[アラート履歴 (Alert History)] ペインの右側にあるスクロールバーを使用します。

- f) アラートを有効化、無効化、または削除するには、次のいずれかのタスクを実行します。
- [アラートステータス (Alert Status)] ウィンドウで、アラートを右クリックし、目的に応じて [アラートの無効化/有効化 (Disable/Enable Alert)] (オプションが切り替わります) または [アラートの削除 (Remove Alert)] を選択します。
 - [アラートステータス (Alert Status)] ウィンドウでアラートを強調表示し、[システム (System)] > [ツール (Tools)] > [アラート (Alert)] > [アラートの無効化/有効化 (または削除) (Disable/Enable (or Remove) Alert)] の順に選択します。

Tip RTMT からユーザ定義のアラートだけを削除できます。事前設定のアラートを選択すると、[アラートの削除 (Remove Alert)] オプションはグレー表示されます。

- g) アラートが解決された後にそれらを個別にまたはまとめてクリアするには、次のいずれかのタスクを実行します。
- [アラートステータス (Alert Status)] ウィンドウの表示後、アラートを右クリックして [アラートのクリア (Clear Alerts)] (または [すべてのアラートをクリア (Clear All Alerts)]) を選択します。
 - [アラートステータス (Alert Status)] ウィンドウでアラートを強調表示し、[システム (System)] > [ツール (Tools)] > [アラート (Alert)] > [アラートのクリア (Clear Alerts)] (または [すべてのアラートをクリア (Clear All Alerts)]) の順に選択します。

アラートをクリアしたら、アラートは赤から黒に変更されます。

- h) アラートをデフォルト設定にリセットするには、次のいずれかの手順を実行します。
- [アラートステータス (Alert Status)] ウィンドウの表示後、アラートを右クリックし、[アラートをデフォルト設定にリセット (Reset Alert to Default Config)] を選択して、そのアラートをデフォルト設定にリセットします。
 - [システム (System)] > [ツール (Tools)] > [アラート (Alert)] > [すべてのアラートをデフォルト設定にリセット (Reset all Alerts to Default Config)] の順に選択し、すべてのアラートをデフォルト設定にリセットします。
- i) アラートの詳細を表示するには、次のいずれかの手順を実行します。
- [アラートステータス (Alert Status)] ウィンドウの表示後、アラートを右クリックして [アラートの詳細 (Alert Details)] を選択します。
 - [アラートステータス (Alert Status)] ウィンドウでアラートを強調表示し、[システム (System)] > [ツール (Tools)] > [アラート (Alert)] > [アラートの詳細 (Alert Details)] の順に選択します。

Tip アラートの詳細の表示が完了したら、[OK] をクリックします。

アラート プロパティの設定

アプリケーションは、アラート通知機能を使用してシステムの問題を通知します。システム パフォーマンス カウンタのアラート通知をアクティブにするには、次の設定が必要です。

[RTMT Perfmon モニタリング (RTMT Perfmon Monitoring)] ペインで、システムの perfmon カウンタを選択し、次のアクションを実行します。

- アラート通知の電子メールまたはメッセージのポップアップ ウィンドウをセットアップします。
- アラートのしきい値を設定します。
- アラート通知の頻度を決定します (アラートが 1 回発生、1 時間ごとに発生など)。
- アラートがアクティブになるスケジュールを決定します (毎日、または 1 日の特定の時刻など)。



Tip カウンタのアラートを削除するには、カウンタを右クリックし、[アラートの削除 (Remove Alert)] を選択します。オプションは、アラートを削除するとグレー表示されます。

Procedure

Step 1 次のいずれかの操作を実行します。

項目	アクション (Action)
パフォーマンスカウンタのアラートプロパティを設定する	<ul style="list-style-type: none"> • パフォーマンス カウンタを表示します。 • カウンタのチャートまたは表から、アラート通知を設定するカウンタを右クリックし、[アラート/プロパティの設定 (Set Alert/Properties)] を選択します。 • [アラートの有効化 (Enable Alert)] チェックボックスをオンにします。

項目	アクション (Action)
Alert Central からアラート プロパティを設定する	<ul style="list-style-type: none"> • [Alert Central] にアクセスします。 • アラートプロパティを設定するアラートを選択します。 <p>次のいずれかの操作を実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • アラートを右クリックし、[アラート/プロパティの設定 (Set Alert/Properties)] を選択します。 • [システム (System)] > [ツール (Tools)] > [アラート (Alert)] > [アラート/プロパティの設定 (Set Alert/Properties)] の順に選択します。 • [アラートの有効化 (Enable Alert)] チェックボックスをオンにします。

Step 2 [重大度 (Severity)] リストチェックボックスで、通知の対象となる重大度レベルを選択します。

Step 3 [説明 (Description)] ペインにアラートの説明を入力します。

Step 4 [Next] を選択します。

Step 5 [しきい値 (Threshold)]、[次の値で算出 (Value Calculated As)]、[期間 (Duration)]、[頻度 (Frequency)]、および [スケジュール (Schedule)] ペインで設定値を設定します。

Table 2: カウンタのアラート設定パラメータ

設定	説明
[しきい値 (Threshold)] ペイン	

設定	説明
<p>次の条件（[以上（Over）]、[以下（Under）]）が満たされたときにアラートをトリガーする</p>	<p>オンにして適用する値を入力します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 以上（Over）：アラート通知がアクティブになる前に一致する必要がある最大しきい値を設定する場合にオンにします。[以上（Over）]の値フィールドには、値を入力します。たとえば、進行中のコールの数と等しい値を入力します。 • 以下（Under）：アラート通知がアクティブになる前に一致する必要がある最小しきい値を設定する場合にオンにします。[以下（Under）]の値フィールドには、値を入力します。たとえば、進行中のコールの数と等しい値を入力します。 <p>Tip これらのチェックボックスは、[頻度（Frequency）]および[スケジュール（Schedule）]の設定パラメータと組み合わせて使用します。</p>
[次の値で算出（Value Calculated As）] ペイン	
<p>[絶対値（Absolute）]、[差分（Delta）]、[差分比率（Delta Percentage）]</p>	<p>適用するオプション ボタンを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 絶対値（Absolute）：一部のカウンタ値は累積されるため、データの現在のステータスを表示する場合に選択します。 • 差分（Delta）：現在のカウンタ値と前回のカウンタ値の差分を表示する場合に選択します。 • 差分比率（Delta Percentage）：カウンタパフォーマンスの変化を比率で表示する場合に選択します。
[期限（Duration）] ペイン	

設定	説明
<p>常に値がある場合にのみアラートをトリガーする... (Trigger alert only when value constantly...) すぐにアラートをトリガーする</p>	<ul style="list-style-type: none"> 常に値がある場合にのみアラートをトリガーする... (Trigger alert only when value constantly...): 値が常に次の場合にアラートをトリガー: 指定した秒数にわたって値が常にしきい値の下限または上限を超えた場合に限りアラート通知を送信する場合は、このオプションボタンを選択して、アラートを送信するまでの秒数を入力します。 アラートをすぐにトリガー (Trigger alert immediately): アラート通知をすぐに送信する場合は、このオプションボタンを選択します。
[頻度 (Frequency)] ペイン	
<p>[各ポーリングでアラートをトリガー (Trigger alert on every poll)], [トリガーの間隔 (trigger up to...)]</p>	<p>適用するオプションボタンを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> 各ポーリングでアラートをトリガー (Trigger alert on every poll): 各ポーリングでしきい値条件が一致したときにアラート通知をアクティブにする場合は、このオプションボタンを選択します。 トリガーの間隔 (trigger up to...): アラート通知を一定間隔でアクティブにする場合は、このオプションボタンを選択して、送信するアラートの数とアラートを送信する時間 (分) を入力します。
[スケジュール (Schedule)] ペイン	

設定	説明
[24 時間毎日 (24-hours daily)]、[開始/停止 (Start/Stop)]	<p>適用するオプション ボタンを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 24 時間毎日 (24-hours daily) : アラートを 1 日 24 時間トリガーする場合は、このオプション ボタンを選択します。 • 開始/停止 (Start/Stop) : アラート通知を特定のタイムフレームでアクティブにする場合は、このオプション ボタンを選択し、開始時刻と停止時刻を入力します。オンになっている場合は、日次タスクの開始時間と停止時間を入力します。たとえば、カウンタを毎日午前 9 時から午後 5 時まで、または午後 9 時から午前 9 時までチェックするように設定することができます。

アラートの一時停止

一部またはすべてのアラートを一時的に停止する場合があります。特定のノードまたはクラスタ全体でアラートを一時停止することができます。たとえば、新しいリリースにシステムをアップグレードする場合、アップグレード中に電子メールや電子ページを受信しないように、アップグレードが完了するまでアラートを一時停止します。

Alert Central でアラートを一時停止するには、次の手順に従ってください。

Procedure

Step 1 [システム (System)] > [ツール (Tools)] > [アラート (Alert)] > [クラスタ/ノードのアラートの一時停止 (Suspend cluster/Node Alerts)] の順に選択します。

Note ノードごとの一時停止状態は、クラスタ全体のアラートには適用されません。

Step 2 次のいずれかの操作を実行します。

- クラスタ内のすべてのアラートを一時停止するには、[クラスタ全体 (Cluster Wide)] オプション ボタンをクリックして、[すべてのアラートを一時停止 (Suspend all alerts)] チェックボックスをオンにします。
- サーバごとにアラートを一時停止するには、[サーバごと (Per Server)] オプション ボタンをクリックし、アラートを一時停止するサーバごとに [一時停止 (Suspend)] チェックボックスをオンにします。

Step 3 [OK] をクリックします。

Note アラートを再開するには、[アラート (Alert)]>[クラスタ/ノードのアラートの一時停止 (Suspend cluster/Node Alerts)]の順に選択して一時停止のチェックボックスをオフにします。

コア ダンプのアラートのセットアップと関連ログの収集

コア ダンプは再現が難しい場合があるため、コア ダンプが発生してから上書きされる前に、関連するログ ファイルを収集することが特に重要です。

コア ダンプの発生時にはすぐに通知を受け取ってトラブルシューティングを支援できるように、コア ダンプに関する電子メール アラートをセットアップします。

電子メール アラートの有効化

手順

- Step 1** [システム (System)]>[ツール (Tools)]>[アラート セントラル) Alert Central)]>の順に選択します。
- Step 2** [CoreDumpFileFound]アラートを右クリックし、[アラート/プロパティの設定 (Set Alert/Properties)]を選択します。
- Step 3** ウィザードの指示に従って優先条件を設定します。
 - a) [アラート プロパティ: 電子メール通知 (Alert Properties: Email Notification)] ポップアップで、[電子メールの有効化 (電子メールの有効化(Enable Email))] がオンになっていることを確認し、[設定 (Configure)] をクリックしてデフォルトのアラート アクションを設定します。これにより管理者に電子メールが送信されます。
 - b) プロンプトに従って、受信者電子メールアドレスを[追加 (Add)] します。このアラートがトリガーされると、デフォルトのアクションは、このアドレスへの電子メールの送信になります。
 - c) [保存] をクリックします。
- Step 4** デフォルトの電子メール サーバを設定します。
 - a) [システム (System)]>[ツール (Tools)]>[アラート (Alert)]>[電子メール サーバの設定 (Config Email Server)] の順に選択します。
 - b) 電子メール サーバの設定を入力します。
 - c) **OK** をクリックします。

ログの収集

電子メールアラートの受信後にログを収集するには、次の手順に従います。

Procedure

-
- Step 1** アラートを発信したサービスを確認します。電子メールメッセージ内では“Core”で示されます。
- Step 2** [ツール (Tools)] > [Trace & Log Central] > [ファイルの収集 (Collect Files)] の順に選択し、影響を受けるすべてのサービスの関連ログを選択します。
- たとえば、サービスが Cisco Presence Engine の場合は、Cisco Presence Engine、Cisco XCP Router および Cisco XCP Connection Manager のログを収集します。または、サービスが Cisco XCP Router の場合は、Cisco XCP Router と、Cisco XCP Connection Manager および Cisco Presence Engine のログを収集します。
- Step 3** CLI から次のコマンドを実行して、スタック トレースを生成します。
- ```
utils core active list
utils core active analyze core filename
```
- Step 4** [ツール (Tools)] > [Trace & Log Central] > [ファイルの収集 (Collect Files)] の順に選択し、[RIS Data Collector PerfMon ログ (RIS Data Collector PerfMon Log)] を選択します。
- Step 5** [ツール (Tools)] > [Syslog ビューア (SysLog Viewer)] の順に選択してシステム ログを収集します。
- ノードを選択します。
  - [システム ログ (System Logs)] > [メッセージ (messages)] の順にクリックして、メッセージを表示し、保存します。
  - [アプリケーション ログ (Application Logs)] > [CiscoSyslog] をクリックして、ログ ファイルを表示し、保存します。
- Step 6** 収集したファイルをシスコのテクニカル サポート ケースに添付します。
-

